

特別警報 をご存知ですか？

特別警報は、大規模な災害の発生が切迫していることをお知らせする警報です。普段からの備えと早め早めの行動があなたや身近な人の命を守ります。

特別警報の発表基準

| 現象の種類 | 基準 | |
|-------|--|---------------|
| 大雨 | 台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合 | |
| 暴風 | 暴風が吹くと予想される場合 | |
| 高潮 | 数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により | 高潮になると予想される場合 |
| 波浪 | | 高波になると予想される場合 |
| 暴風雪 | 数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合 | |
| 大雪 | 数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合 | |

表中の”数十年に一度”の現象に相当する降水量等の客観的な指標は気象庁ホームページで公表しています。

地震警報などを特別警報に位置づけます

| 現象の種類 | 基準 |
|---------|---|
| 地震(地震動) | 震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合(緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける) |
| 火山噴火 | 居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合(噴火警報(居住地域)*を特別警報に位置づける) |
| 津波 | 高いところで3メートルを超える津波が予想される場合(大津波警報を特別警報に位置づける) |

(*) 噴火警戒レベルを運用している火山では「噴火警報(居住地域)」「噴火警戒レベル4または5」を、噴火警戒レベルを運用していない火山では「噴火警報(居住地域)」(キーワード:居住地域厳重警戒)を特別警報に位置づけています。

特別警報が発表されたら

- ・尋常でない大雨や暴風等が予想されています。
- ・重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ・ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

命を守るために情報の収集に努めてください

特別警報は、自治体や報道機関を通じて伝えられます。テレビやインターネット、自治体から発信される情報の収集に努めてください。



- ・「特別警報が発表されない」は「災害が発生しない」ではありません。
- ・これまでどおり注意報、警報、その他の気象情報を活用し、早めの行動をとることが大切です。
- ・普段から避難場所や避難経路を確認しておきましょう。

※気象庁HPより一部を抜粋して掲載

「特別警報」については、気象庁HPに詳細が掲載されていますので、ご確認ください。

気象庁

〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4
 電話: 03-3212-8341 FAX: 03-6689-2917 (耳の不自由な方向け)
 気象庁ホームページ
<https://www.jma.go.jp>
 特別警報について
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/tokubetsu-keiho/>

風水害情報について

大雨や強風は、わたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨注意報・警報の発表基準

大雨注意報

大雨によって災害が起こるおそれがあると予測される場合
 ・表面雨量指数(注1)10
 ・土壌雨量指数(注2)71

大雨警報

大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予測される場合
 (浸水害)表面雨量指数19 (土砂災害)土壌雨量指数113
記録的短時間大雨情報 1時間に雨量100mm

雨の強さと降り方

| 予報用語 | 1時間雨量(mm) | 人の受けるイメージ | 人への影響 | 屋内(木造住宅を想定) | 屋外の様子 | 車に乗っていて |
|---------|--------------|-------------------------|-------------------|---------------------|----------------------------|---|
| やや強い雨 | 10以上 20未満 | ザーザーと降る。 | 地面からの跳ね返りで足元がぬれる。 | 雨の音で話し声が良く聞き取れない。 | 地面一面に水たまりができる。 | — |
| 強い雨 | 20以上 30未満 | どしゃ降り。 | 傘をさしていてもぬれる。 | 寝ている人の半数くらいが雨に気がつく。 | 道路が川のようになる。 | ワイパーを速くしても見づらい。 |
| 激しい雨 | 30以上 50未満 | バケツをひっくり返したように降る。 | 傘は全く役に立たなくなる。 | | | 高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる。(ハイドロプレーニング現象) |
| 非常に激しい雨 | 50以上 80未満 | 滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く) | | | 水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。 | 車の運転は危険。 |
| 猛烈な雨 | 80以上 | 息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。 | | | | |

風の強さと吹き方

| 予報用語 | 平均風速(m/s) | およその時速 | 速さの目安 | 人への影響 | 屋外・樹木の様子 | 走行中の車 | 建造物 | およその瞬間風速(m/s) |
|--------|--------------|--------|----------|---|--|---------------------------------------|--|---------------|
| やや強い風 | 10以上 15未満 | ~50km | 一般道路の自動車 | 風に向かって歩かなくなる。傘がさせない。 | 樹木全体が揺れ始める。電線が揺れ始める。 | 道路の吹流しの角度が水平になり、高速運転中では横風に流される感覚を受ける。 | 樋(とい)が揺れ始める。 | 20 |
| 強い風 | 15以上 20未満 | ~70km | 高速道路の自動車 | 風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。 | 電線が鳴り始める。看板やトタン板が外れ始める。 | 高速運転中では、横風に流される感覚が大きくなる。 | 屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある。雨戸やシャッターが揺れる。 | 30 |
| 非常に強い風 | 20以上 25未満 | ~90km | | 何かにつかまっていけないと立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。 | 細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。道路標識が傾く。 | 通常で運転するのが困難になる。 | 屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。ビニールハウスのフィルム(被覆材)が広範囲に破れる。 | 40 |
| 猛烈な風 | 25以上 30未満 | ~110km | 特急電車 | 屋外での行動は極めて危険。 | 多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。 | 走行中のトラックが横転する。 | 固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。養生の不十分な仮設場が崩落する。 | 50 |
| | 30以上 35未満 | ~125km | | | | | 外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある。住家で倒壊するものがある。鉄骨構造物で変形するものがある。 | 60 |
| | 35以上 40未満 | ~140km | | | | | | |
| | 40以上 | 140km~ | | | | | | |

台風の大きさと強さ

| 大きさ | 風速15m/s以上の半径 | 強さ | 最大風速 |
|-------------|----------------|-------|--------------------------------|
| 大型(大きい) | 500km以上800km未満 | 強い | 33m/s(64ノット)以上44m/s(85ノット)未満 |
| 超大型(非常に大きい) | 800km以上 | 非常に強い | 44 m/s(85ノット)以上54m/s(105ノット)未満 |
| | | 猛烈な | 54m/s(105ノット)以上 |

(ページ内の図表は気象庁ホームページより抜粋、編集)

台風時によく耳にする言葉が『hPa(ヘクトパスカル)』ですが、hPaは台風の中心気圧を見るもので、数値が低い方が勢力が大きくなります。参考:令和元年東日本台風は915hPaでした。

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して多量の雨が降ることで、「ゲリラ豪雨」とも言われています。発生の予測は困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

線状降水帯

線状降水帯は、次々と発生する発達した雨雲(積乱雲)が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過するまたは停滞する事で作り出される、線状に伸びる長さ50~300km程度、幅20~50km程度の強い降水をとまなう雨域です。この情報は、警戒レベル4相当以上の状況で気象庁から発表されます。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 村や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

注1 表面雨量指数: 短時間の強い雨による浸水害の危険度の高まりを把握するための指数。降った雨が地中に浸み込まずに、地表面にどれだけ溜まっているかを指数化したもの。

注2 土壌雨量指数: 大雨による土砂災害の危険度の高まりを把握するための指数。降った雨が土壌中にどれだけ溜まっているかを指数化したもの。

